

人間を、使い捨てにさせない教育と平和を！

橋村りか副代表、社民党の教育・平和政策を訴える

4月9日、上益城郡益城町での街頭演説会で、マイクを握った橋村りか副代表は、同日に中学校入学式を迎えた自身の家族のエピソードを交えながら、現政権が進める「経済・軍事優先」の社会構造に対し、自らが掲げる「命を大切に政治」への転換を強く訴えました。

「教育」を労働力の供給源にさせない
——社民党が考える教育

橋村副代表は、中学校の入学資料に「学校は職業に就くための準備期間」と記されていた事実に触れ、「子どもたちを単なる社会の歯車、経済の資本としてのみ扱う教育の在り方に断固反対する」と表明しました。

社民党は、教育の目的は憲法が定める「人格の完成」にあると考えます。「大学に半導体学部が新設されるなど、特定の産業に特化した人材育成ばかりが優先され、学びの多様性が奪われている」との娘さんの声を引用し、橋村副代表は、若者が「自分は大切にされている」と実感できる、競争から共生への教育改革の必要性を強調しました。

「命の防波堤」憲法9条を守り抜く
——平和への決意

また、深刻化する軍備増強問題について、健軍駐屯地へのミサイル配備計画を厳しく批判しました。「駐屯地周辺には10万人以上の命がある。そこに巨大なミサイルを置くことが何を意味するのか。平和は決して他人事ではない」と指摘。自衛隊員もまた一人の生活者であり、家

族を持つ市民であることを念頭に、憲法9条を堅持することこそが、隊員やその家族、そして全市民の命を守る唯一の道であると訴えました。

社民党熊本県連合として

——あなたの声を預けてください

熊本という土地柄、平和や憲法の問題を口にするためにためらいを感じてきた市民の思いに寄り添い、橋村副代表は「恐怖や違和感を声に出す勇気を共に持ちましょう」と呼びかけました。社民党熊本県連合は、以下の政策を柱に、市民の皆様と共に歩みます。

- 「教育の無償化」と「人格を尊重する教育環境」の整備
- 「南西諸島の軍事要塞化」および「県内へのミサイル配備」への反対
- 「一人の人間として大切にされる」社会保障の拡充

「一人の母親、一人の生活者の視点から
——平和な未来を次世代に手渡す」

橋村副代表の決意は、社民党熊本県連合の揺るぎない方針です。私たちは、生活の現場から上がる怒りや不安を政治の真ん中に届け、軍拡よりも生活、経済効率よりも人間の尊厳を優先する社会の実現を目指します。

憲法9条を
堅持することこそが
命を守る唯一の道である！



熱く訴える橋村りか副代表

社会新報熊本県版のバックナンバーは下記のアドレス、
右の二次元コードからご覧いただけます

https://drive.google.com/file/d/1imqtoZT6gVr-xe6D0_zK7hwPN8N1KGbK/view?usp=sharing

